I	#	業名	621	100	観光宣伝推進事業費	+5	当課			商工観光部 観光課	内線
ı	7	未口	番枝		10000000000000000000000000000000000000	72	*===			尚工就儿郎 就儿妹	2217
I		会	H	1	一般会計	総	政策	衰	4	「にぎわい」のあるまちをめざして	
ı	予	款		6	商工費	合	分野	野	1	観光	
ı	算	項	項 2		観光費	計画	基本施策		策 2 多くの人々に地域の魅力を知ってもら		
ı		目		1	観光振興費	M	施鈴	衰	1	戦略的な誘客宣伝	
I		根拠詞	計画		高山市産業振興計画						
I	実施計画事業		Ě	広域観光推進事業、おもてなしのこころ醸成事業、観	観光情報等発信事業、国際観光都市推進事業						
	市長公約 1		1	積極的な観光振興策を実施します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光						します 。	

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	観光客	対象者数	-
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・高山への来訪促進 ・周遊・滞在観光の魅力の向上 ・観光情報発信の強化		
概要	事業の 実施手法 (手段)	・印刷物・HPなど各種媒体を活用した誘客宣伝 ・広域連携、民間事業者と連携した誘客宣伝 ・各種キャンペーン、物産展等出向宣伝によるPR ・継続的なイベントや関係他団体事業支援等の実施による誘客宣伝		

・誘客パンフレットやDVD、HP等による情報発信 ・物産展、旅行エージェント、メディアを活用した宣伝 ・各種旅行関係者の視察受入

2 事業の推移・結果(Do) H24の実績

算出根拠等

			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25	
	成	総合パンフレット	Un chian %h	部	目標値				
	果指	松白ハンフレット	TF/X.qP3X	ap.	実績値	200,000	200,000	-	
	標	算出根拠等			達成率(%)			ı	
	成果	ぶらり散策マッフ	8 Un ct; 40 %h	部	目標値				
	果指	ふらり取束マツノ	TF风印数	ap.	実績値	830,000	645,000	-	
	標	算出根拠等			達成率(%)			-	
	成	観光客入込数		千人	目標値	5,000	5,000	5,0	000
成	果指	就儿各八匹奴		17	実績値	3,481	3,769	-	
果	標	算出根拠等	高山市観光統計		達成率(%)	70	75	ı	
面	成	外国人観光客入	23 *hr	千人	目標値	300	300	3	300
	果指	外国人锐儿各人	.还数	1,7	実績値	95	151	-	
	標	算出根拠等	高山市観光統計		達成率(%)	32	50	ı	
	jar.				目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			ı	
					目標値				

補足事項

実績値 達成率(%)

		(人件費を	事業費 除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出 (千円)	(A)	19,695	15,672	22,990
コス		益者負担(使用料・	負担金等)				
۲	源 内)他特定財源(国・	県支出金·起債等)		19,695	15,672	22,990
面		段財源					
	コスト	受益者1件当たり	小(円)	(A/B)	211	169	250
	指標	受益者		(B)	93,312	92,861	92,097

	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い					
1	市民ニーズ の確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α	・観光客による経済活動ニーズに沿う事業である	動は地域の活性化につながり る。	、市民の
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い					
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない				
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	!である	Α	・H23年度から市域全体 施された。	にかかる民間団体による誘っ	客宣伝も実
			C (0)	市が実施する必要	性が低い				
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている				
		・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	・震災の影響や近年の質悩んでいる。	景況の厳しさ等からここ数年、	、やや伸び
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し				
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	A (2)	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない					
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	В	・最小限のコストで実施 情報収集にも力を入れ	しているが、外部からの補助 る必要がある。	金活用等
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必 要である					
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	A (2)	効果があった					
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る 上で有効に機能したか	B (1)	ある程度効果があ	った	В	・事業の実施は、市の政策、市長公約において効果があり 標達成を図る上で更なる誘客活動が必要である。		があり、目
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能した か	C (0)	あまり効果が見られなかった					
		合計	7	/ 10	\rightarrow		100点換算	70	点
分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)		課題 めに何が ・観光客のニーズの把握と動向を的配	在に捉えた	こ、有効な誘客宣伝が	舌動				
	(参考) H24事業評価結果 (二次評価)			【伝方法・媒体を選択	Rし、効果的に実施する必 要	 がある。			

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・観光統計、アンケート調査の分析によるニーズ把握による観光宣伝

0	維持・改善		拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	展や旅行エージェント、メデ ターを活用した宣伝	ィアとi	連携した宣伝強化			

縮小

廃止の検討

H25完了予定

二次記	∓. /∓	
		課評価)

0

維持·改善

・観光宣伝は、ターゲットに応じて常に最適な宣伝方法・媒体を選択し、効果的に実施する必要がある。

拡大

-												
	#	業名 62	110	高山祭事業費	±F	当課		商工観光部 観光課	内線			
ı	番枝			同山水平未見	15	- AIR						
ı		会計	1	一般会計	総	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして				
ı	予	款	6	商工費	合	分野	1	観光				
ı	算	項	2	観光費	計画	基本施策	1	人々のこころを魅了する滞在型・通年型観光地づくりを行				
ı		目	1	観光振興費	Ш	施策	1	多様な観光需要への対応				
ı		根拠計画		高山市産業振興計画								
ı	実施計画事業		Ķ.	観光イベント開催事業								
	市長公約 1			積極的な観光振興策を実施します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化・ ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光					ます。			

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	観光客(高山祭来訪者)	対象者数	_
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・高山祭の認知度の向上と来訪者の増加を図る ・高山祭を安全に実施する		
概要	事業の 実施手法 (手段)	・祭協賛会組織による官民一体となった誘客宣伝 ・来訪者の受入体制の整備		

2 事業の推移・結果(Do)

		H24の実績	・観光キャンペーン等による事前PR ・祭行事等観光案内業務、誘導看根 ・観光客等の安全な誘導に必要な習	页の設置	設置等			
			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
	成	高山祭人出		千人	目標値			
	果指	同山宋八山		T.A.	実績値	370	411	-
	標	算出根拠等			達成率(%)			-
	成果	観光客入込数		人子	目標値	5,000	5,000	5,000
	未 指	就几乎八匹奴		17	実績値	3,481	3,769	-
	標	算出根拠等	高山市観光統計		達成率(%)	70	75	-
					目標値			
成果					実績値			-
果面		算出根拠等			達成率(%)			-
Ш					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-

		(人件費を	事業費 除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出(千円)	(A)	5,227	5,645	5,680
コス		·者負担(使用料・	負担金等)				
۲	源 内)他特定財源(国・	県支出金·起債等)				
面		设財源			5,227	5,645	5,680
	-1/AT	受益者1件当たり	小(円)	(A/B)	56	61	62
	指標	受益者		(B)	93.312	92.861	92.097

補足事項

3	分析・評価(CI 評価項目	heck) <u>※平成24年度の実績を記録の実績を記録である。</u>	評価	評価	# 2#	-a /ac	== /= d= d=	カの世界(西原の理由体)	
	計価項目	評価観点			基 华	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向は	よどう A (2) ニーズが高い					
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴い二	=-ズ B	ある程度のニーズ	がある	Α	・市を代表する観光資源 に実施することは必要	原として、高山祭を宣伝すること及び安全 不可欠である	
		は減少していないか	C	(0) ニーズが低い					
			Α (事業主体を見直す	余地はない				
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していないか	В	一部見直しが必要	である	Α		5り、市が協賛会の事務局として、誘客宣 行うことは、観光客の増加を図るうえで	
			C	(i) 市が実施する必要	性が低い		X3 CW V		
			Α (2) 目的とする成果が	十分にあがっている				
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況はど	ごうか B	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	・天候や曜日にも恵まれ ・関連団体と連携した安	ι来訪者が増加した ₹全で円滑な誘導が必要である	
			C	(0) 目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し				
		・最小限のコストで事業を実施できている ・委託化など事業の効率化・省力化に向け		事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない				
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担	В.	3 (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			・最小限のコストで事業を実施しているが、景況の厳しさ等か 受益者負担額が減少し、その分、市の負担が増加する傾向である		
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C	効率化が図られてい 要である	効率化が図られていないため大幅な見直しが必 要である		<i>w</i>		
		・事業の実施が市の政策、施策の推進しがあったか		対果があった	効果があった				
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を 上で有効に機能したか	В	ある程度効果があ	ある程度効果があった		・誘客事業の一つとして一定の効果はあるが、市長公約のにはさらなる事業推進が必要である		
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能 か		C (ii) あまり効果が見られなかった 7 / 10					
		合計	7				100点換算	70 点	
(۲,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	果題・高山祭の認知度を向上させ、! りに何が・安全管理を見直し、事故の発							
	(参考) H24事業評価約 (二次評価)	・祭事業のPRによる誘客宣伝の・安全、安心な事業実施と観光		_					

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・高山祭の認知度を向上するために、ICT技術を活用するなど、積極的な情報発信を継続する・警察署や神社(宮本)と連携し、安全対策に努める

0	維持•改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	売き祭事業を宣伝し観光客 安心な事業実施と観光案				

	0	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	(担当)	課評価に同じ)				

Ī	#	業名	213	0	飛騨高山観光客誘致推進協議会負担金	+F	当課		商工観光部 観光課	内線			
	#	※ 位	技		元界同山或几谷的双淮连勋原云兵卫亚	111	- 1 本		2217				
		会計	П	1	一般会計	総	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして				
	予	款	#*		合	分野	1	観光					
1	算	項	П	2	観光費	計画	基本施策	2	多くの人々に地域の魅力を知ってもら	う			
		目	П	1	観光振興費		施策	1	戦略的な誘客宣伝				
		根拠計画	Ī		高山市産業振興計画								
	実施計画事業			誘客宣伝事業									
	市長公約 1		1	積極的な観光振興策を実施します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光					ます。				

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	観光客(教育旅行関係)	対象者数	_					
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	高山訪問の動機づけ及び周遊型・滞在型観光の魅力向上による観光客誘致							
概要	事業の 実施手法 (手段)	飛驒・高山観光コンベンション協会や飛騨高山旅館ホテル協同組合等、民間団体と連携した誘客事業							

2 事業の推移・結果(Do) ・テレビ、ラジオ、インターネット、雑誌、物産展等を活用した宣伝 ・ライトアップ、タイムカプセルを通って江戸時代へ、難まつり、端午の節句、ぐるりスタンプラリー等のイベント

		H24の実績	・JRと連携した観光キャンペーン ・岐阜県や姉妹友好都市等と連携した観 ・NHK等メディアとの共催事業によるPR		ペーン			
			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
	活	出向宣伝回数			目標値			
	動指	山川旦仏凹数		ш	実績値	11	11	-
	標	算出根拠等			達成率(%)			-
	成	観光客入込数		千人	目標値	5,000	5,000	5,000
	果指	就儿各八匹奴			実績値	3,481	3,769	-
	標	算出根拠等	高山市観光統計		達成率(%)	70	75	-
	成果	外国人観光客)	21 %h	千人	目標値	300	300	300
成	果 指	77国人既儿各7	\1 <u>\2\4</u>	1,7	実績値	95	151	1
成果面	標	算出根拠等	高山市観光統計		達成率(%)	32	50	-
血	成	教育旅行の入込	∆ ₩n	人	目標値			
	果指	女 日 脈1 1 の 人と	<u>></u>		実績値	92,961	103,780	1
	標	算出根拠等	高山市観光統計		達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
			•		目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-

補足事項

県、他団体等と連携した各種緊急キャンペーンの実施

		(人件費を	事業費 と除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出 (千円)	(A)	19,200	19,300	19,300
コス		者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源 内)他特定財源(国·	·県支出金・起債等)		18,300	18,400	19,300
面		財源			900	900	
	-1 / I	コスト 受益者1件当たり(円)			206	208	210
	指標	受益者	市民(4月1日現在)	(B)	93,312	92,861	92,097

3	分析·評価(C	heck) ※平成24年度の実績を	と評価							
	評価項目	評価観点			評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向	はどう	A (2)	ニーズが高い					
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴い	ヽニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α	・観光客の増加が地域 ズは高い。	経済の活性化につながるため市民ニ-	
		は減少していないか		C (0)	ニーズが低い					
				A (2)	事業主体を見直す	余地はない				
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していない。	か	B (1)	一部見直しが必要	である	Α		や観光情報を把握し、効果的に誘客事 点を含めた運営が必要であり、市が事 ・が流光である	
				C (0)	市が実施する必要	性が低い		向となって行動すること	.バ· <u>旭</u> コ C のの。	
				A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている				
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況は	はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	・長引く不況の影響等を受け、ここ数年の観光客数は伸びでいる。		
				C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し				
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実		A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない			And the second of the second		
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負		B (1)	事業効率化・コスト縮	減等がある程度図られている	В		負担金含め、官民共同で事業を実施し 難しいが、事業の効率化を検討する必	
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必 要である			2160700		
		・事業の実施が市の政策、施策の推進があったか	性に効果	A (2)	効果があった			・市の誘客推進を図るうえで核となる事業であり、不況や震		
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成 上で有効に機能したか		B(1) ある程度効果があった		iot:	В	同の影響がある中で一定の効果があった。 の影響がある中で一定の効果があった。 - ここ数年観光客数が伸び悩んでおり、時代や観光客のニー にあった事業を実施する必要がある。		
		・市長公約の実現を図る上で有効に機 か	能した	C (0)	あまり効果が見られなかった					
		솜計		7	/ 10	\rightarrow		100点換算	70 点	
(۲,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするたと 必要なのかを記	課題 ・高山の認知度を向上させる かに何が ・時代や観光客のニーズに合			果的な誘客活動の	実施				
	(参考) H24事業評価結果 (二次評価) ・官民共同による誘客事業の継続 ・支所地域の観光関係団体との連携 ・時代や観光客のニーズに合った手法に				果的な誘客活動					

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・地域資源を活かしたスポーツツーリズム(ウルトラマラソン開催)による、新たなターゲットへのPR

	0	維持•改善		拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	·支所:	共同による誘客事業の継続 地域の観光関係団体との。 や観光客のニーズに合った	車携	よる効果的な誘客活動			
			1				

	0	維持· 収 書	拡大	稲小	廃止の模計	H25完了予定
二次評価 企画課·総務課·財政課評価)	(担当)	課評価に同じ)				

	事業名	62	140	 飛騨高山ウルトラマラソン実行委員会負担金	+F	当課			商工観光部 観光課	内線			
•	尹未石	番枝		水井岡山・ノルトノマノノン夫11安兵公兵位立	115	二本			尚工就儿的 就儿妹	2218			
	会	計	1	一般会計	総	政策	衰	4	「にぎわい」のあるまちをめざして				
予			商工費	総合計	分野	分野		観光					
算	IJ	Į	2	観光費		基本抗	拖策	2	多くの人々に地域の魅力を知ってもらう				
	目 1		1	観光振興費	画	施贫	衰	1	戦略的な誘客宣伝				
	根拠	計画		高山市産業振興計画									
	実施計画事業			観光イベント開催事業									
	市長公約 1		1	積極的な観光振興策を実施します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化・ ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光						、ます。			

1 事業の目的・概要(Plan)

Г	誰を(対象)	市民	対象者数	92,097 人
Ē		・飛騨高山ウルトラマラソン開催による地域のPR、新たなターゲットの獲・大会開催による地域経済の活性化や地域カの向上を図る	得	
相要		・ランニング専門誌、各種ホームページ、マラソン愛好家へのDM発送な 地域のPRや新たな観光客層を獲得する。また、大会運営に必要な物資 性化を図る。 ・各種団体、企業、市民ボランティア等を広く募り、官民一体となって開作	等は市内調達を最優	先とし、地域経済の活

<u>2</u> 事業の推移・結果(Do)

	・第1回飛騨高山ウルトラマラソンの開催(広報活動、ボランティアの募集、説明会の開催、各種制作物の作成、スポ
H24の実績	ンサーの募集など) ・第2回大会の募集(ランニング専門誌への広告掲載、各種ホームページ、マラソン愛好家へのDM発送、コース等の
	一部変更など)

		一部変更なと)										
		指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25					
活	市内業者への発) NA	- m	目標値	0		15,000					
動指	市内来有への発	注	千円	実績値	0	13,758	-					
標	算出根拠等			達成率(%)			-					
活	+	11募集に係るDM発送	人	目標値	8,000	8,000	8,000					
動指	人云PR及U参加	ル券朱I-ボるDIVI光达		実績値	8,000	8,000	-					
標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-					
活		加募集に係る雑誌への掲載(発行	部	目標値	270,000	270,000	270,000					
動成 指	部数)		ap.	実績値	270,000	270,000	-					
果標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-					
面成	++042241	*L III	千円	目標値	0		200,000					
果指	市内の経済波及	(効果	TH	実績値	0	107,008	-					
標	算出根拠等			達成率(%)			-					
成	大会申込人数		人	目標値	1,000	2,000	2,500					
果指	人去中丛人数			実績値	1,158	1,929	-					
標	算出根拠等			達成率(%)	116	96	-					
成				目標値								
果 指				実績値			-					
標	算出根拠等			達成率(%)			-					
	油 尼東頂											

		(人件費を	事業費 除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出 (千円)	(A)	1,000	10,000	3,000
コス		益者負担(使用料・	負担金等)				
۲	源 内)他特定財源(国・	県支出金·起債等)			10,000	3,000
面		段財源			1,000		
	コスト	受益者1件当たり	小(円)	(A/B)	11	108	33
	指標	受益者		(B)	93,312	92,861	92,097

3	分析·評価(C	heck) 🖔	※平成24年度の実績を	·評価																														
	評価項目		評価観点			評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)																								
		·事業実施(こ対する市民ニーズの傾向	はどう	A (2)	ニーズが高い																												
1	市民ニーズ の確認		の変化など時の経過に伴い	ニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	В	・1,000人を超える選め、市内の経済波及効	手や関係者が宿泊し、観光など 1果は高いと考える。	を行うた																							
		は減少してい	いないか		C (0)	ニーズが低い																												
					A (2)	事業主体を見直す	余地はない		・大会が軌道にのるまでは、市が事業主体となる必要があ																									
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか		か	B (1)	一部見直しが必要	である	В		の活性化をより図るため、受益																								
					C (0)	市が実施する必要	性が低い		建当りの子仏とちんて	€ \\2. \\2. \\3. \\6. \\6. \\6. \\6. \\6. \\6. \\6																								
					A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている																											
3	活動内容の 目的とする成果があがっているか 有効性 ・成果指標などの目標値の達成状			はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	・全国から多くの参加者が集まり、スポーツツーリズムが推れ、観光消費による地域経済の活性化が図られている。																									
					C (0) 目的とする成果があがってないため大幅な見直し が必要である																													
		性 ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軸			A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない																													
4	の効率性				B (1)	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	В	化を図るには、参加人)財政負担を軽減している。一↓ 数を増やすことが考えられるが ₹全面等の課題が残る。																								
		減する余地 ・受益者負担			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必 要である			A-900 ((/ 1, 2 / 1, 1, 3	(工匠中の) () () () ()																								
		・事業の実施があったか	国及び主要計画等の目標達成を図る		A (2)	効果があった																												
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及 上で有効に			国及び主要計画等の目標達成を図る		。 国及び主要計画等の目標達成を図る に機能したか		国及び主要計画等の目標達成を図る		及び主要計画等の目標達成を図る		及び主要計画等の目標達成を図る				国及び主要計画等の目標達成を図る		国及び主要計画等の目標達成を図る		国及び主要計画等の目標達成を図る		及び主要計画等の目標達成を図る		及び主要計画等の目標達成を図る				国及び主要計画等の目標達成を図る		B(I) ある程度効果があった		Α	
		・市長公約の か	の実現を図る上で有効に機	能した	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった		0.136.66.20																									
		合計			7	/ 10	\rightarrow		100点換算	70	点																							
(۲,	分析・評価で 明らかになった課題 「A」評価にするために何が 必要なのかを記入) ・市の財政負担がなくても、実施でき																																	
	(参考) H24事業評価結果 (二次評価)・地域への経済効果を検証・分析し、今			後の事	業につなげていく必	要がある。																												

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・エイドステーションを活用し、地域特産品のプロモーション等を全地域で行った。また、道の駅等に協力していただき、参加者及びスタッフに対する割引サービス等の特 典を提供し、地域経済の活性化を図った。

縮小

廃止の検討

H25完了予定

	維持・改善	0	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)			感じられる大会を開催する。 いと思える環境を構築する			

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

0

維持·改善

・地域への経済効果を検証・分析し、今後の事業につなげていく必要がある。 ・企業に対し協賛を呼びかけ、市負担金に頼らない大会運営を行う必要がある。

拡大

7	業名	621	145	観光協会等補助金	+6	当課		商工観光部 観光課	内線				
T.	10000000000000000000000000000000000000	番枝	1	(コンペンションを除く)	115	二本	103 - WEYO HP BULLOW						
	会	H	1	一般会計	総	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして					
予	7 371		6	商工費	合計画	分野	1	観光					
算			2	観光費		基本施策	2	多くの人々に地域の魅力を知ってもらう					
	目		1	観光振興費	ш	施策	1	多様な観光需要への対応					
	根拠詞	計画		高山市産業振興計画									
	実施計画事業			観光協会助成事業、誘客推進事業									
	市長公約 1		1	積極的な観光振興策を実施します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化・ ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光?					ます。				

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	市内観光協会、観光連絡協議会	対象者数	_
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・様々なツールを活用して飛騨高山を広く国内外にPRし、観光事業の振る	観光客の誘致促進を図	
概要	事業の 実施手法 (手段)	【親光協会運営費補助金】 会費収入額を基準として、限度額370万円(会費収入500万円以上)、130 (親光容誘致推進事業補助金) 総額(地円を限度として、観光宣伝、情報発信、地域資源活用事業等に		万円未満)の補助を行う

2 事業の推移・結果(Do)

【観光協会運営費補助金】 市内10観光協会に対する補助金 【観光客誘致推進事業補助金】	14,387千円
観光連絡協議会に対する補助金	94,018千円

			観光連絡協議会に対する補助金 9	4,018千円	1				
			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25	
		観光協会等補助]件数 費補助金、観光客誘致推進事業補	件	目標値	12	11		11
	動指	助金)	貝冊切並、既儿各語以推進爭未無	117	実績値	12	11	ı	
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-	
		観光協会等補助]金額 費補助金、観光客誘致推進事業補	千円	目標値				
	動指	助金)	貝冊切並、既几晉的以推進爭未冊	117	実績値	95,317	108,405	-	
	標	算出根拠等			達成率(%)			-	
	成果	観光客入込数	千人	目標値	5,000	5,000		5,000	
成	指	就儿智八匹奴		17	実績値	3,481	3,769	-	
成果面	標	算出根拠等	高山市観光統計		達成率(%)	70	75	-	
ш	成	外国人観光客入込数		千人	目標値	300	300		300
	果指	が国人就儿を入	COX	17	実績値	95	151	-	
	標	算出根拠等	高山市観光統計		達成率(%)	32	50	-	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
				Lab	CT of the second				

平成23年度より「観光客誘致推進事業補助金」(限度額1億円)を設立

			(人件費を	事業費 - 除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
				歳出(千円)	(A)	95,317	108,405	115,000
コス		登益	者負担(使用料・	負担金等)				
۲	源内	その	他特定財源(国・	県支出金·起債等)		95,317	108,405	115,000
面		一般	財源					
	コス	17	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	1,021	1,167	1,249
	指標	Ę	受益者		(B)	93,312	92,861	92,097

3		neck) ※平成24年度の実績を評	评価								
	評価項目	評価観点			評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向は	tどう .	A (2)	ニーズが高い						
1	市民ニーズ の確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴い二	ニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α	観光協会等の各種誘する地域経済への影響	致推進事業は、観光関連産業をはじめと が大きい。		
		は減少していないか		C (0)	ニーズが低い						
			A (2) 事業主体を見直す余地はない				・官民一体となって観光客誘致推進事業を行っており、それる				
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していないか		B (1)	一部見直しが必要	である	Α	主に各観光協会に運営	。観光協会運営費補助事業については、 ・費補助金を出し、それが適正に執行さ ながら実施しており、当該事業の主体が		
				C (0)	市が実施する必要	性が低い		市であることは妥当であ			
				A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている		・東日本大震災直後は、旅行に対する自粛ムードが広がり、 光客が激滅したものの、様々な誘客キャンペーンやイベント を実施した結果、震災前のH22年比99%まで回復させること			
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況はど	ごうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В				
				C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し		でき、成果がある程度あがっている。			
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実			事業効率化・コスト	宿滅等の改善の余地はない		・観光協会補助金については、予算決算を確認し、補助対象			
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担	旦を軽	B(1) 事業効率化・コスト縮減等かめる程度図られている			ついては、最小限のコストで影響の大き				
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か		C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必		いキャンペーンやイベン	小等を実施するよう努めている。		
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に があったか	二効果	A (2)	効果があった			・誘客事業の一つとして一定の効果はあるが、市長公約の実 にはさらなる事業推進が必要である			
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を 上で有効に機能したか		B (1)	ある程度効果があ	ot: B					
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能 か	とした	C (0) あまり効果が見られなかった		れなかった					
		合計	7		/ 10	\rightarrow		100点換算	70 点		
(۲,	分析・評価で 明らかになった課題 「A」評価にするために何が ・各観光協会同士の連携もほとんどなく、それぞれ単独の事業を行っている状態となり、広域的な誘客活動まで広がっていない。 ・「飛驒高山」の個性を前面にPRLつつ、社会経済情勢や旅行者ニーズの変化の先を見越したイベント、キャンベーン等の実施が必要である。										
	(参考) H24事業評価約 (二次評価)	・観光誘客推進事業補助金を效	効果的に活	舌用し、	戦略的な誘客宣伝	を行う必要がある。					

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

【観光客誘致推進事業補助金】 - 平成24年度の実績を踏まえて、誘客により効果のある事業、地域、方法を選択し、事業計画を立て、実施中。 - 様々な事業やイベント、ツールを活用して、国内外へ「飛騨高山」を積極的にPRL、観光客500万人、外国人観光客30万人を目指す。

	0	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)		客誘致推進事業補助金】 24、25年度の実績及び分材	うっぱい かいまい かいまい かいまい かいまい かいまい かいまい かいまい かい	え、事業内容を取捨選択し	へより す	効果のある事業を実施する) o		

	0	維持·改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
二次評価 企画課·総務課·財政課評価)	(担当詞	課評価に同じ)				

	事業名	62	145	観光協会等補助金(コンベンションビューロー		担当課		商工観光部 観光課			
	番枝 2		2	助成、コンベンション開催支援)	15	- AIR		同二就儿的 就儿妹	2216		
	会計		1	一般会計	総	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして			
7		Ż.	6	商工費	合	分野	1	観光			
第	ij	į	2	観光費	計画	基本施策	2	人々のこころを魅了する滞在型・通年型観光地	づくりを行う		
	E		1	観光振興費		施策	1	多様な観光需要への対応			
	根拠	計画		高山市産業振興計画							
	実施計画事業		Ķ.	飛騨・高山コンベンションビューロー助成事業、コンベンション開催支援事業							
	市長公約 1			様極的な観光振興策を実施します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。 ・高山市を訪れる年間観光客800万人、外国人観光客30万人を目指します。							

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	(一社)飛騨・高山観光コンベンション協会、コンベンション開催支援団体	対象者数	_
自然			・ 術文化の振興及び地は	· 或経済の活性化を図る
根要		【飛騨・高山コンベンションビューロー助成事業】 (一社)飛騨・高山観光コンベンション協会が行うコンベンション誘致等に 【コンベンション開催支援事業】 高山市内で開催される一定条件を満たしたコンベンションに対して補助		助を行う

2 事業の推移・結果(Do)

		H24の実績	【飛騨・高山コンベンションビューロー助成事業】 東海地方では岐阜、名古屋を中心に、関東地方では東京を中心に学会事務局や大学等60団体を訪問 飛騨・高山地域で48件(51,787人)のコンベンションを開催(補助対象外コンベンションを含む) 【コンベンション開催支援事業】 【コンベンション開催支援事業】 補助対象コンベンション開催件数:35件、参加人数(飛騨地域を除く):11.576人、実締額:9,740千円									
	_		指標名	単位	目標·実績	現を除く) . 11,370人 H23	大模領. 9,740千円	H25				
	活	_ *\ \ . \ _ \ BE	千円	目標値	10,000	20,000	20,000					
	動指	コンベンション開	惟又抜補助並領	TH	実績値	6,707	9,740	-				
	標	算出根拠等			達成率(%)	67	49	-				
	活動	コンベンション誘	· 新計問此物	件	目標値							
	指	コン・・ンフョン む			実績値	45	48	-				
	標	算出根拠等			達成率(%)			-				
	成果	補助対象コンベ	ノション間催数	件	目標値	31	31	31				
成	指	m w 1 x 1 sx -1 y .	ンコン防住外		実績値	27	35	-				
果面	標	算出根拠等	高山市観光統計		達成率(%)	87	113	-				
囬	成果	補助対象コンベ	レベンション参加者数(飛騨地域を除く)		目標値	7,200	15,500	15,500				
	指	m w 1 x 1 sx -1 y .	フフョン参加有数(飛騨地域を除く)	人	実績値	6,725	11,576	-				
	標	算出根拠等	高山市観光統計		達成率(%)	93	75	-				
	成果	高山市観光入辺	. 者数	千人	目標値	5,000	5,000	5,000				
	指	10) PH 17 NE 20 7 12		170	実績値	3,481	3,769	-				
	標	算出根拠等			達成率(%)	70	75	-				
					目標値							
					実績値			-				
		算出根拠等			達成率(%)			-				
		埔 足車頂										

	-							
			事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額	
				歳出 (千円)	(A)	12,770	15,803	26,063
コス		受益	者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源内	その	他特定財源(国·	・県支出金・起債等)		12,770	15,803	26,063
面		一般	財源					
	コス	VI-	受益者1件当たり(円) (A/			1,899	1,365	1,681
	指相	票	受益者	補助対象コンベンション参加者	(B)	6,725	11,576	15,500

3	分析・評価(C		平価				1		
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向は	どう A ©	2) ニーズが高い			・年々支援補助金やその他コンペンションの支援を活用する 体が増えている。コンペンション開催により、高山市への観光 込者数が増加するため、ある程度のニーズはある。		
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニ・	-ズ B (ある程度のニーズ	゚゙ゕ゙゙ある	В			
		は減少していないか	C (0) ニーズが低い			2 2 300 2 200 7 300 7		
			Α (事業主体を見直す	「余地はない		・コンベンション開催に。	より、観光入込者数を増やし、地域の活	
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	В (一部見直しが必要	見である	Α	性化を図るため、市が (一社)飛騨・高山観光	事業主体であることは妥当である。また、 コンベンション協会と事業の住み分けを	
			C (市が実施する必要	厚性が低い		し、互いにチェックし合いながら進めている。		
			Α (2) 目的とする成果が	十分にあがっている				
3	活動内容の 有効性			1) 目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	・目的とする成果が上がっており、今後もより積極的に誘致活動も行っていく。		
				目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し				
	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実			事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない				
4	の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担	を軽 B(事業効率化・コスト総	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		・申請・実績資料のチェックも行っており、適正に執行している。		
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必				
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか		対果があった	効果があった		-> *> > > 18 M o 1		
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を 上で有効に機能したか	В (ある程度効果があ	ある程度効果があった		・コンベンション開催のリピーターも徐々に増えてきており、固 的な観光客となりつつある。しかし、観光客500万人を超えるが めにはより一層積極的な誘致と実施が必要となる。		
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能しか	C (あまり効果が見ら	れなかった		のにはより一層保煙的体誘致と天肥が必要とはる。		
		솜計	8	/ 10	\rightarrow		100点換算	80 点	
(Г,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	課題・コンベンションは増加傾向にあ りに何が ル、市内民間事業者への事業内						ペンション支援内容の積極的なアピー る。	
	(参考) H24事業評価約 (二次評価)	・コンベンション誘致に伴う経済が	効果についる	て、把握・検証する必要					

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・スポーツ大会等をコンベンション対象とした旨のより一層の周知

	0	維持·改善		拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	・コング	ベンション誘致訪問地及び ず	業種の 抗	拡大			
	0	維持·改善		拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定

二次評価	
画課・総務課・財政課評価)	・コンベ

ヾンション誘致に伴う経済効果について、把握・検証する必要がある。

事	事業名 62150 番枝		50	- 観光振興関係事務費 -	担当課			商工観光部 観光課	内線 2209		
	会計		1	一般会計	総合	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして			
			6	商工費		分野	1	観光			
算	項	į	2	観光費		基本施策	1	人々のこころを魅了する滞在型・通年型観光地	づくりを行う		
	目	目 1 観光振興費		画	施策	1	多様な観光需要への対応				
	根拠詞	計画		高山市産業振興計画							
- 1	実施計画	画事業	ŧ	広域観光推進事業							
	市長公約 1		1	積極的な観光振興策を実施します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。 ・情間高信技術は進化し続けており、日々多様化する全世界からの情報ニーズにもしっかりとこたえていく必要があるため、インターネットや携帯端末機などの最新の情報通信技術(ICT)を駆使した新たな誘客施策を展開します。							

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	観光客(外国人観光客を含む)、市内民間事業者等	対象者数	_
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・各種調査、統計等の作成及び分析とそれに基づく戦略的観光施策の5・情報通信技術を活用した観光情報の積極的な提供・ユニバーサルデザインに基づく観光案内の整備・各種協議会などを活用した広域的な観光客誘致促進事業の展開	6定と実施による観光	客誘致
概要	事業の 実施手法 (手段)	・観光統計、交通量調査等の実施及び分析、各種観光資料に基づいた ・携帯端末の位置情報発信機能を活用した観光情報提供システムの導 ・各種協議会への積極的な参加及びイベント、キャンペーン等の実施		計

2 事業の推移・結果(Do)

24の実績	・観光統計の作成、交通量調査等の実施 ・各種協議会事業の実施(キャンペーン等への出役等)

			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
	活	バリアフリー情報	2. 出土 孔平 ム 数	台	目標値	10	10	10
	動指	ハリアフリー旧判	以响不改但百数		実績値	10	10	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	活	観光客入込数		千人	目標値	5,000	5,000	5,000
	動指	観尤各人込剱			実績値	3,481	3,769	-
	標	算出根拠等	高山市観光統計		達成率(%)	70	75	-
	成	外国人観光客入	1.27 */r	千人	目標値	300	300	300
成	果指	介国人観儿各人匹奴		17	実績値	95	151	-
果	標	算出根拠等	高山市観光統計		達成率(%)	32	50	-
面					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等						-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
			•		目標値			·
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
				Lab	m struct			

刊	疋	7	垻	

		(人件費	事業費 と除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出 (千円)	(A)	10,162	8,853	9,860
コス		益者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源 内)他特定財源(国	·県支出金・起債等)			6,093	100
面		段財源			10,162	2,760	9,760
	コスト				109	95	107
	指標	受益者	市民(4月1日現在)	(B)	93,312	92,861	92,097

	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)		
٦		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い			・積極的な誘客事業や	観光客受入の環境を整えることにより、		
1	市民ニーズの確認	・争来美施に対する市民――スの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α	観光客の増加に繋がるため、地域経済への影響が大きい。 平成24年度は観光客が前年と比べて増加しており、高山市に とって観光客誘致は喫緊の課題であるため、市民ニーズは高			
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い			とって観光各誘致は喫!い。	緊の課題であるため、市民ニースは高		
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない					
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	! である	А		態めながら、広域的な範囲での観光客談 『騨地域全体の活性化を図るうえで市か ☆ス		
			C (0)	市が実施する必要	性が低い			ນ.ຈຸ		
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている		# 4 4 EX P L	. It / 3 . I Mr. a a b . I da B . 3 . 3 a		
3)	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	・様々な誘客キャンペーンやイベント等を実施した結果、入込数が対前年比約8%増加せることができ、成果がある程度あがっている。			
			C (0) 目的とする成果があがってないため大幅な見直し が必要である							
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	A (2)	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない						
4)	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	減等がある程度図られている	В	・各種負担金や必要事 し、適正に執行している	業等については、効率化・省力化を意識 。		
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必					
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	A (2)	A (2) 効果があった B (1) ある程度効果があった		В	・観光客500万人を超えるためにはより一層積極的な誘致と3 施が必要であるが、入込客数を増加させることができたため 市長公約の実現に向けてある程度効果があったと考える。			
5	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る 上で有効に機能したか	B (1)							
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能した か	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった		中央ムサッツスを1年1111、このも往及が末かの月にころんも。			
		合計	7	/ 10	\rightarrow		100点換算	70 <u>ś</u>		
۵٦)	分析・評価で明らかになった。 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	果題・「観光統計」や観光はがきアンケート かに何が・・北陸新幹線開業を見据えた広域的な			・ 民や観光客のニーズに合っ	かた、新た	, :な戦略的施策の検討や	実施をしていく必要がある。		
	(参考) H24事業評価級 (二次評価)	応果 運用に奴めていく必要がある	有効性等	を検証しながら新た	なシステムの導入の検討を	を進めてい	べとともに、既存のシス・	テムも含めたシステム全体の効果的な		

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・観光統計に必要なデータを収集するため、旅館等に対して行う「宿泊者数調査」や、観光客に対して行う「観光はがきアンケート」を引き続き実施している。 ・北陸地域との連携強化。

次年度の	
実施方針	・観光
(担当課評価)	·観光

0

維持·改善

・観光情報提供システムの効果的な運用及び分析。・観光関連アンケートの実施及び分析とそれに基づいた戦略的観光施策の検討。・北陸新幹線開業への対応。

拡大

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

拡大 縮小 廃止の検討 H25完了予定 維持·改善

縮小

廃止の検討

H25完了予定

・観光情報提供システムについては、有効性等を検証しながら新たなシステムの導入の検討を進めていくとともに、既存のシステムも含めたシステム全体の効果的な 運用に努めていく必要がある。

_													
	車	業名 62	155	旅フェア協賛事業費	±F	当課		商工観光部 観光課	内線				
	7	香枝		ボノエノ助員予未買	15.31杯			向工就儿的 脱儿球	2218				
		会計	1	一般会計	総	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして					
	予 款 6		6	商工費	合	分野	1	観光					
-	箅	項 2		観光費	計画	基本施策	2 多くの人々に地域の魅力を知ってもらう						
		目	1 観光振興費		1	施策	1 戦略的な誘客宣伝						
		根拠計画		高山市産業振興計画									
	実施計画事業			誘客推進事業									
	市長公約 1		1	積極的な観光振興策を実施します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光					ンます 。				

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	観光客	対象者数	-
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)			
概要	事業の 実施手法 (手段)	飛騨・高山観光コンヘンション協会、飛騨高山旅館ホテル協同組合等の民間	団体と協同した誘客	事業

2	事業の推移・結果	.(Do)
	H24の実績	・国内旅行商談会への参加 ・祭り屋台の展示による飛騨高山のPRやさるぼぼとの写真撮影会を実施 ・地酒PRの一環として試飲(7酒蔵)を実施 ・カイズ形式のブルナン・デンジンを実施

			・フィスル氏のフレビン)一フョンを	天爬				
			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
	活	旅フェア入場者数	ア入場者数		目標値			120,000
	動指	(※H23のみJA	ATA旅博)	人	実績値	117,236	93,099	-
	標	算出根拠等			達成率(%)			-
	成	細小空 3 13 粉	現光客入込数		目標値	5,000	5,000	5,000
	果指	旣元各人处数			実績値	3,481	3,769	-
	標	算出根拠等	高山市観光統計		達成率(%)	70	75	-
	成果指	内国 L 粗火灾 3	外国人観光客入込数		目標値	300	300	300
成		外国人観兀各人			実績値	95	151	-
成果面	標	算出根拠等	高山市観光統計		達成率(%)	32	50	-
面	成				目標値			
	果指				実績値			-
	標	算出根拠等			達成率(%)			-
	成				目標値			
	果指				実績値			-
	標	算出根拠等			達成率(%)			-
	成		•		目標値		·	
	果指				実績値			-
	標	算出根拠等			達成率(%)			-
				4:8	口古语			

刊	疋	7	垻	

		(人件費を	事業費 を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出 (千円)	(A)	1,519	2,883	3,300
コス		者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源 内)他特定財源(国·	·県支出金·起債等)		1,519	2,883	3,300
面		財源					
	-1 / I	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	16	31	36
	指標	受益者		(B)	93,212	92,861	92,097

3		neck) ※平成24年度の実績を記	評価							
	評価項目	評価観点			評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)			
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向は	Α まどう	A (2)	ニーズが高い					
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴い二	=−ズ B	B (1) ある程度のニーズがある		Α	・観光客増加による地域経済の波及は、市の活性化につなれてとから、市民ニーズは高い。			
		は減少していないか	С	(0)	ニーズが低い					
			А	A (2)	事業主体を見直す余地はない		・社会経済情勢や旅行者ニーズの変化を的確にとらえた施策を			
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していないか	В	3 (1)	一部見直しが必要である	В	展開するため、市が主体となって官民共同で誘客宣伝をする 要はあるが、市と各協議会が行う事業の費用負担や役割な			
			С	(0)	市が実施する必要性が低い		のすみわけについては、今後整理が必要である。			
			А	(2)	目的とする成果が十分にあがっている		H= -1, -2 H= 1, 2-1, 7, 4-7, 2 H= 1260			
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況はど	どうか B	3 (1)	目的とする成果がある程度あがっている	В	・旅フェアは一定の成果を上げていると考えるが、規模が縮/ 傾向にあるため、より高い成果をあげられる旅行博へ出展す 必要がある。			
			С	(0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直し が必要である					
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実			事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない					
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担	В	3 (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている	В	・限られた出展スペースで、様々な演出を考え、国内への旅行需要者へPRしている。			
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	С	(0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必 要である					
		・事業の実施が市の政策、施策の推進にがあったか	二効果 A	A (2)			・平成24年度の観光客は、前年よりも8.3%の増加となってり、観光客の増加に結びついている。			
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を 上で有効に機能したか	ь	3 (1)						
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能 か	EL/E C	(0)	あまり効果が見られなかった					
		合計	7		/ 10 -		100点换算 70 点			
(۲,	分析・評価で 明らかになった課題 「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)・旅フェアへの出展は、最小限のコストで最大限の誘客宣伝ができるように工夫を凝らしているが、出展者数や入場者数が減少しているため、より効果の高い旅行博へ 出展する必要がある。									
	(参考) H24事業評価結果 (二次評価) ・効果的なPR方法の検討と効率的な1									

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・平成25年度からは、より高い効果を上げるため、毎年来場者数、出展者数が伸び、また、商談会への参加企業・団体数においても旅フェアを遥かに超え、規模が拡 大傾向にあるJATA旅博へ出展する。

	0	維持·改善		拡大	縮小	廃止の検討		H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	・効果的	的なPR方法の検討と効率	的な事	業実施				
			_				_	

)	##N 4VB	may.	481.1.	2611 O 15(1)	1120)61172
二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	(担当	課評価に同じ)				

・観光施設26施設の管理運営

T.	62 業名 ^{番枝}	300	観光施設運営事業費		!当課	商工観光部観光課 220						
	会計	1	一般会計		政策	4						
予	予 款 6 商工費		総合	分野	1	観光						
算			計画	基本施策	1	人々のこころを魅了する滞在型・通年型観光地づくりを行う						
	目	2	観光施設費	凹	施策	3	観光関連施設の整備					
	根拠計画		高山市産業振興計画									
	実施計画事	業	観光施設運営事業、観光・交流施設維持修繕改修事	観光施設運営事業、観光・交流施設維持修繕改修事業、新穂高エリア環境整備事業								
	市長公約 1		額種的な観光振興策を実施します。 ・国際的かつ福祉的観光都市として将来的に持続できる歴史、自然、文化、ノ ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。	人情、愈	(、技を中心とし	と観光	慈盤をさらに発展させ付加価値を高めます。					

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	市民及び観光客	対象者数	_
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	自然資源の活用施設や体験交流施設など観光関連施設の整備を促進るとともに地域の振興を図る。	することにより、滞在型	型観光地づくりを推進す
概要	事業の 実施手法 (手段)	・観光施設26施設の管理運営		

2 事業の推移・結果(Do)

算出根拠等

算出根拠等

		H24の実績	・指定管理による運営(24施設) ・観光施設整備(旧中藪家屋根葺替	替、ジョイフル朴の木温泉ポンプ等交換、あじか下水道切替工事ほか)								
			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25				
	活	管理施設数		箇所	目標値							
	動指	官理他政致		171	実績値	29	26	-				
	標	算出根拠等			達成率(%)			-				
	成	施設利用者数		千人	目標値							
	果指				実績値	930	908	-				
	標	算出根拠等			達成率(%)			-				
	成	駐車場利用台数	,	台	目標値							
成	果指	紅半物利用口奴			実績値	41,322	41,585	-				
果	標	算出根拠等			達成率(%)			-				
面	成	観光客入込数	***************************************		目標値	5,000	5,000	5,000				
	果指	欧儿合人还数		千人	実績値	3,481	3,769	-				
	標	算出根拠等	高山市観光統計		達成率(%)	70	75	-				

補足事項

目標値

実績値

達成率(%) 目標値 実績値

達成率(%)

		(人件費	事業費 と除き繰越・補正を含む)	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出 (千円)	(A)	130,097	217,836	260,732
コス		益者負担(使用料	•負担金等)		2,038	1,935	1,590
۲	源 その	D他特定財源(国	·県支出金·起債等)		46,699	105,593	123,578
面		设財源			81,360	110,308	135,564
	コスト	受益者1件当たり(円)		(A/B)	140	240	
	指標	受益者	利用者数	(B)	930,406	907,834	

3	分析·評価(C		と評価					1		
	評価項目	評価観点			評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向	はどう	A (2)	ニーズが高い					
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴い	ヽニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	゚ゕ゙ある	В	・地域にとっては重要な ニーズがある	定雇用の場であり、地域活性化	ととしての
		は減少していないか		C (0)	ニーズが低い					
				A (2)	事業主体を見直す	余地はない				
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していない。	か	B (1)	一部見直しが必要	!である	В	・民間と競合する施設もある	5多く、施設の譲渡を検討して	いく必要が
				C (0)	市が実施する必要	[性が低い				
				A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている		北南<u></u>英四老制在 之际		±1.7
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況に	はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	・指定管理者制度を活用し、民間の考えで運営にあたっているところであるが、経済事情・道路事情等の変化により利用者数が減少している。		
				C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し				
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実 施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽		A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない			. 北宁然理老制度の道	入により、利用者へのサービ	フロ ト(ナナ
4	執行方法 の効率性			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		Α	とより、運営経費の縮減に取り組まれており、施設運営手法としては有効である。		
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必 要である			4.0.17.11.24.00		
		・事業の実施が市の政策、施策の推進 があったか	性に効果	A (2)	効果があった ある程度効果があった			・東日本大震災の影響で観光客数が大幅に減少した前年原 比べて、8.3%の増加とすることができた。		
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成上で有効に機能したか		B (1)			В			に前年度に
		・市長公約の実現を図る上で有効に機 か	能化した	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった				
		숌計		6	/ 10	\rightarrow		100点換算	60	点
(Γ,	分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入) ・指定管理者制度による運営施設の: 類似施設の整理統合 ・休止施設の利活用の検討			充						
	(参考) H24事業評価結果 (二次評価)・施設の譲渡や廃止を含めた方針(定						

課題等に対する 今年度の対応状況

4 今後の方向性(Action)

・休止施設の再開(パスカル清見オートキャンプ場) ・指定管理の更新に向けての調整

次年度の 実施方針 維持·改善

・施設の譲渡や廃止を含めた方針の策定 ・効率的な運営の推進

維持·改善 拡大 縮小 廃止の検討 H25完了予定

拡大

縮小

廃止の検討

H25完了予定

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

(担当課評価に同じ)

	事業名	62	304	スキー場運営事業費	+6	当課		商工観光部 観光課	内線	
	7.1			ヘイー衛連合学来員	12 - 1 Dr		ᄞᅩᇌᄱᄞᅑᄱ		2209	
	会計		1	一般会計	総	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして		
2		款	6	商工費	合	分野	1	観光		
9	Į	項	2	観光費	計画	基本施策	1	人々のこころを魅了する滞在型・通年型観光地	づくりを行う	
		目	2	観光施設費		施策	3	観光関連施設の整備		
	根	拠計画		高山市産業振興計画	† =					
	実施	計画事	集	観光·交流施設維持修繕改修事業						
	市長公約 1		1	積極的な観光振興策を実施します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化・ ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光					、 ます。	

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	市民及び観光客	対象者数	_
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	自然資源の活用施設や体験交流施設など観光関連施設の整備を促進 るとともに地域の振興を図る。	することにより、滞在型	型観光地づくりを推進す
概要	事業の 実施手法 (手段)	スキー場2施設の指定管理者制度を活用した運営		

2 事業の推移・結果(Do)

4の実績	・2施設(モンデウス・アルコピア)の指定管理による運営・スキー場リフト整備
	・人キー藻リント整備

			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
	成	管理施設数		施設	目標値	2	2	2
	果指	自垤肥故奴		ル直文	実績値	2	2	ı
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	1
	成果	施設利用者数	用者数	千人	目標値	100	100	100
	指	7/6 DX 117/17 E 3X		17	実績値	80	80	=
	標	算出根拠等			達成率(%)	80	80	-
	成果指	観光客入込数		千人	目標値	5,000	5,000	5,000
成				17	実績値	3,481	3,769	=
成果面	標	算出根拠等			達成率(%)	70	75	-
Ш					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-

			(人件費を	事業費 を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
	歳出 (千円) (A) 財 受益者負担(使用料・負担金等)				(A)	19,774	17,855	18,000
コス								
۲	源内	その	の他特定財源(国・県支出金・起債等)			534	847	13,049
面		一般	財源			19,240	17,008	4,951
	コス	7	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	246	224	225
	指	標	受益者		(B)	80,354	79,699	80,000

3	分析·評価(C	heck) <u>※平成24年度の実績を評価</u>	<u> </u>						
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はど	A (2)	ニーズが高い			・地域によってける面が	定雇用の場であり、地域活性化。	レナの
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニー	ズ B (1)	ある程度のニーズ	がある	В	ニーズがある。 ・冬期間のスポーツレジャー施設であり、市民ニーズは、		
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い			で初間のハバ プレンド 加色などのが、日本二 へはめる		
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない				
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	В	民間と競合する施設で がある。	であり、施設のあり方を検討して	いく必要
			C (0)	市が実施する必要	性が低い				
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている				
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	b (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	・指定管理者制度を活用し、民間の考えで運営にあたっていることころであるが、スキー人口の減少、経済事情・道路事情等変化により利用者数が減少していたが、やや持ち直した。		
				目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し		X 151CS 711/11 B W.N	MY 0 CO 12.8 C (19.9 E C	
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実		事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない		北中祭四本制作の道	3 (= LU)	☆ L (4.4
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を	軽 B (1)	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	Α		入により、利用者へのサービス 載に取り組まれており、施設運賃	
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	率化が図られていないため大幅な見直しが必 である				
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	果 A (2)	効果があった			- 平成24年は、利用者滅少傾向の中、滅少幅を最小限に止ることができた。		
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図 上で有効に機能したか	B (1)	ある程度効果があ	った	В			限に止め
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった				
		숌計	6	/ 10	\rightarrow		100点換算	60	点
(Г,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	課題 かに何が・積極的な誘客宣伝を実施し、施証	役利用者の増	加を図る必要がある	5.		1	1	

(参考) H24事業評価結果 (二次評価)

市営スキー場の今後の運営方針を早期に定める必要がある。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

- ・ヒュッテ組合などの関係者と連携した誘客宣伝の実施・地域振興におけるスキー場の位置付けの検証 ・市営3スキー場の運営方針の策定 ・効率的な運営方法の検討

	0	維持·改善		拡大		縮小	廃止の検討	H25完了予定
文年度の ミ施方針 ^{旦当課評価)}	·指定f	管理者の更新を行ったうえ	で、指定	E管理による運営を継続す	る。			

0	維持·改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

市営スキー場の今後の運営方針を早期に定める必要がある。

=	事業名 62315		観光案内所運営事業費		当課	商工観光部 観光課			
7	香枝		就几条门房还置于未具	71	二本		向工就儿的 就儿妹	2209	
	会計	1	一般会計	政策 4 「にぎわい」のあるまちをめざして					
予	款	6	商工費	合	分野	1	観光		
算	項	2	観光費	計画	基本施策	1 人々のこころを魅了する滞在型・通年型観光地		づくりを行う	
	目	2	観光施設費	施策 2 受入体制の整備		受入体制の整備			
	根拠計画		高山市産業振興計画						
-	実施計画事業	集	観光案内所運営事業						
積極的な観光振興策を実施します。 ・国際的かつ福祉的観光都市として将来的に持続できる歴史、自然、文化、人情、食、技を中心とした観光基準展させ付加価値を高めます。 ・直加まな計りる全規制半安500万人。内国人制半安20万人を日均します。					さらに発				

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	外国人も含めた観光客	対象者数	329,080	人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	観光客満足度を高めることで、よりたくさんの観光客を誘致する。また外 光客を確保する	国人観光客への対応	も行い、海外からも	観
概要	事業の 実施手法 (手段)	観光案内所窓口及び電話での観光案内、外国語版も含めた観光パンフ	レットの配布		

2 事業の推移・結果(Do)

1104の字件	・外国人観光案内所(ビジット・ジャパン案内所)への再認定
H24の実績	・外国人観光客への接遇の質向上を図るため、ビジット・ジャパン案内所研修へ参加

		指標名 指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
活		ける日本人観光客への案内件数	件	目標値	300,000	300,000	300,000
動指	及びパンフレット	配布件数	14	実績値	260,634	296,284	-
標	算出根拠等	観光統計	•	達成率(%)	87	99	-
活	観光案内所における外国人観光客への案内件数		件	目標値	23,000	23,000	23,000
動指	及びパンフレット	配布件数	IT	実績値	10,978	32,796	-
標	算出根拠等	観光統計		達成率(%)	48	143	-
成	高山市への再来訪の意向		%	目標値	100	100	100
果 指			70	実績値	98	99	-
果 標	算出根拠等	観光統計		達成率(%)	98	99	-
成	観光客入込数	組火灾 ス ニス 粉		目標値	5,000	5,000	5,000
果指	凯兀各八匹奴		千人	実績値	3,481	3,769	-
標	算出根拠等	観光統計		達成率(%)	70	75	-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値	·		
				実績値			-
	算出根拠等	, in the second		達成率(%)			-

		(人件費を	事業費 ・除き繰越・補正を含む)				H25 予算額	
			歳出 (千円)	(A)	4,423	4,407	4,780	
コス		者負担(使用料·	負担金等)					
۲	の その他特定財源(国・県支出金・起債等)					4,407	1,548	
面					4,423		3,232	
	コスト 受益者1件当たり(円)		(A/B)	16	13	14		
	指標	受益者		(B)	271,612	329,080	330,000	

.... ----

	評価項目	評価観点		評価も	基準	評価	評価内容	字の説明(評価の理由等)		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い			#F.J. # - 11 # 18 \			
1	市民ニーズ の確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	В		であるため、直接的には市民はあまり必 客に対する積極的な観光案内を求めて ・ーブがなスト表テス		
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い			いる無く、める往及の一	- ^1000007000		
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない		*			
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	В	・高山市の観光案内を行うため、市が事業主体であることが望ましいが、今後指定管理の導入についても検討をしていく必要がある。			
			C (0)	市が実施する必要	性が低い		, a a a a a a a a a a a a a a a a a a a			
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている			E内件数が増加し、高山市への再来訪れ		
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	望割合も微増しているため、目的とする成果はあがっていると考える。			
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し		.,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	A (2)	事業効率化・コスト組	縮減等の改善の余地はない					
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	В	・消耗品費の削減に努めるなど、無駄のない事業の実施が図れている。			
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必					
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	A (2)	効果があった			組火灾港口库 七月	7 = 1.15 1.11 京小士・のまませる伊勃		
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る 上で有効に機能したか	B (1)	ある程度効果があ	った	Α		ることにより、高山市への再来訪希望割 きたため、市長公約の実現を図る上で 5.		
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能した か	C (0)	あまり効果が見られ	れなかった		NAME OF COLUMN			
		合計	7	/ 10	\rightarrow		100点換算	70 点		
(F.	分析・評価で 明らかになった A」評価にするたと	課題 . タはに渡る細火をのニーブに戻る	うため、よ!	Jきめ細かな対応を	図っていく必要がある。					

必要なのかを記入)

(参考) H24事業評価結果 (二次評価)

・近隣の観光案内所と連携を図りながら、より観光客のニーズに合った観光案内をすると共に、日本人・外国人を問わず、高山市へのリピーターとなってもらえるような 話題性のある観光案内所を目指す。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況 ・特殊な問合せ案件に対しても真摯に耳を傾け、利用者の方に不快な思いをさせることのないよう、丁寧な対応を心がけている。

拡大

・近隣の観光案内所にもイベント情報等、積極的な情報共有を図っている。

次年度の 実施方針 (担当課評価)

・近隣の観光案内所との連携を図りながら、広域観光案内の実現を図る。 ・より観光客のニーズに合った観光案内をすると共に、日本人・外国人問わず、高山市へのリピーターとなってもらえるような話題性のある観光案内所を目指す。 ・運営方法の見直し

縮小

廃止の検討

H25完了予定

維持·改善

0 拡大 縮小 廃止の検討 H25完了予定 維持·改善 (企画課・総務課・財政課評価) (担当課評価に同じ)

事	業名 623 番枝	320	観光施設管理事務費	担	当課			線 09
	会計	1	一般会計	政策 4 「にぎわい」のあるまちをめざして		「にぎわい」のあるまちをめざして		
予	款	6	商工費	<mark> </mark>		観光		
算	項	2	観光費	計画	基本施策	本施策 1 人々のこころを魅了する滞在型・通年型観		を行う
	目	2	観光施設費	施策 3 観光関連施設の整備		観光関連施設の整備		
	根拠計画		高山市産業振興計画					
5	実施計画事業	Ě	観光施設運営事業					
ī			積極的な観光振興策を実施します。 - 高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。					

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	市民及び観光客	対象者数	_
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	滞在型・通年型の観光地づくりを行うために観光関連施設の維持管理を	行う。	
概要	事業の 実施手法 (手段)	・乗鞍インターネットライブカメラによる映像配信 ・看板、モニュメント維持管理		

2 事業の推移・結果(Do)

H24の実績	・ライブカメラの維持管理と映像配信

		指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
活		イブカメラ配信回数	0	目標値	12,840	12,816	12,816
動指		イノカメブ部15回数	Ш	実績値	12,120	11,808	-
標		畳平24回/日×169日+曽手24回/日	×365日	達成率(%)	94	92	-
成		tr	,	目標値	200,000	200,000	200,000
果指		X		実績値	181,932	164,946	-
標		乗鞍自動車利用適正化協議会推計	十数値	達成率(%)	91	82	-
成			千人	目標値	5,000	5,000	5,000
果成 指				実績値	3,481	3,769	-
果標		高山市観光統計	達成率(%)	70	75	-	
面成		インターネットライブカメラHP閲覧者数					
果指					239,629	356,580	-
標		高山市観光統計	i l				-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
		•		目標値			
				実績値	·		-
	算出根拠等			達成率(%)			-

		(人件費	事業費 を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出 (千円)	(A)	404	416	702
コス		者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源 内)他特定財源(国	·県支出金·起債等)				
面		財源			404	416	702
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	2	1	3
	指標	受益者	ライブカメラHP閲覧者数	(B)	239.629	356.580	250.000

_	分析・評価(CI	heck) ※平成24年度の実績を 評価観点	o r imi		評価	其淮	評価	11年内2	容の説明(評価の理由等)
	可圖次口	印画彩版			ニーズが高い	数年	штш	6千川川ドリ	日の記め(計画の左口子)
	±	・事業実施に対する市民ニーズの傾向に	まどう	A (2)	――<か向い			・乗鞍へは年間約18万	人の観光客が訪れており、山頂の状況
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴い=	ニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α		光客へ情報提供することは、乗鞍への り、観光関連事業者のニーズは高い。
		は減少していないか		C (0)	ニーズが低い			114 7 0% 0 00 CW	Y MODIFICATION OF THE STATE OF
				A (2)	事業主体を見直す	余地はない			
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	,	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	・乗鞍は多様な地域資 信していく必要がある。	源のひとつであり、市が積極的に情報
				C (0)	市が実施する必要	性が低い			
				A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている			
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況は。	どうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	多くのHP閲覧者があり	り、成果は上がっている。
	1379312			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し			
		・最小限のコストで事業を実施できている ・委託化など事業の効率化・省力化に向		A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない			
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか・国等の補助金の活用など市の財政負		B (1)	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	А	・通信費やライブカメラ	撤去設営費等の経費であり、これ以上 る。
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か		C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必			
		・事業の実施が市の政策、施策の推進しがあったか	に効果	A (2)	効果があった				
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成 上で有効に機能したか	を図る	B (1)	ある程度効果があ	not:	В	乗鞍のライブ映像を配がっている。	己信することにより、観光客の誘致につ
	3017 377374	・市長公約の実現を図る上で有効に機能か	能した	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった			
		合計	8	3	/ 10	\rightarrow		100点換算	点 80
(Г,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	<mark>果題</mark> けに何が ・鮮明な映像が配信できるよう	うカメラのノ	シテナン	ンスを定期的に実 が	1		1	
	(参考) H24事業評価総 (二次評価)		映像を配	信する。					

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・畳平ライブカメラの設置場所変更

次年度の 実施方針 (担当課評価) ・継続してインターネットライブ映像を配信する。		0	維持・改善		拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	実施方針	・継続し	してインターネットライブ映イ	象を配信	言する。			

)		E14 4	~=	100.7	•	,	MB - 1 -	<i>D</i> 6.	E-0719CB1		112076 7 7 72
二次評価												
(企画課・総務課・財政課評価)	(担当	課評価に	:同じ)									

3	11 業名	120	奥飛騨温泉郷観光施設運営事業費	±Ε	当課		商工観光部 観光課	内線					
7	香枝		天术引起水类机儿地区是日子不具	12	- AIC		IN THE RESIDENT						
	会計	12	観光施設事業特別会計	総	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして						
予	款	1	総務費	合	分野	1	観光						
算	算 項 1 目 1		総務管理費	計画	基本施策	1	人々のこころを魅了する滞在型・通年型観光地づくりを行						
			一般管理費		施策	3	観光関連施設の整備						
	根拠計画		高山市産業振興計画										
-	実施計画事	業	観光施設運営事業、観光・交流施設維持修繕改修事業										
	市長公約	1	積極的な観光振興策を実施します。 ・国際的かつ福祉的観光都市として将来的に持続できる歴史、自然、文化、人情、食、技を中心とした観光基盤をさらに発展させ付加価値を高めます。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。										

1 事業の目的・概要(Plan)

Г	誰を(対象)	.) 観光客	対象者数	185,242	人
的			光客の集客を図る		
根要		あかんだな駐車場の管理運営			

2 事業の推移・結果(Do)

104の中体	・目標どおり、営業日数を確保できた。	
付24の実績	・普通由及び一輪由の利田台数が増え	結里として駐車提付田料総額も増加した

			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
	活	あかんだな駐車	担党类口数	В	目標値	210	210	210
	動指	めがんだる戦争	物西米口奴		実績値	208	210	-
	標	算出根拠等	実績表		達成率(%)	99	100	-
	成日	せかしもかま	場利用台数(普通車)	台	目標値	47,500	47,500 47,500	
	果指	めかんには駐車	场利用百数(百进平)		実績値	46,568	55,692	-
	標	算出根拠等	実績表		達成率(%)	98	117	-
	成日	せかしもかま	場利用台数(大型バス)	台	目標値	600	630	630
成	果指	めかんには駐車	場利用百数(人堂ハス)		実績値	614	511	-
成果	標	算出根拠等	実績表		達成率(%)	102	81	-
面	成	15年1月11日八巻	· (- + - + \)	台	目標値	250	250	250
	果指	駐車場利用台数	7月日数(日勤二輔)		実績値	249	281	-
	標	算出根拠等	実績表		達成率(%)	100	112	-
	成	あかんだな駐車	担体用机	千円	目標値	25,000	25,000	25,000
	果指	めかんには駐車	场使用科	TH	実績値	24,562	28,924	-
	標	算出根拠等	艮拠等 実績表		達成率(%)	98	116	-
					目標値			
					実績値		-	
		算出根拠等			達成率(%)			-
				14	口古语			

		(人件費	事業費 を除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
			歳出 (千円)	(A)	14,120	14,351	14,598
コス		益者負担(使用料	•負担金等)		14,120	14,351	14,598
F	源内	の他特定財源(国	·県支出金·起債等)				
面		-般財源					
	コスト	受益者1件当たり(円)		(A/B)	87	77	89
	指標	受益者		(B)	161,443	185,242	164,800

3	分析・評価(C		評価				-			
	評価項目	評価観点			評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向	はどう	A (2)	ニーズが高い			・土垣描か駐車フペー	スを確保することにより、奥飛騨温泉郷地	
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴い	ニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	В		とから、ある程度の市民のニーズはある	
		は減少していないか		C (0)	ニーズが低い					
				A (2)	事業主体を見直す	余地はない		1 - 11 1 - 14 0 *	- MR * 0 * # + 12 * + 11 * + 12 * + 1	
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していないが	þγ	B (1)	一部見直しが必要	である	В	・上高地や乗鞍へのバス利用者の重要な駐車場であり、5 な経営が求められることから、高山市が事業主体であるこ 妥当である。		
				C (0)	市が実施する必要	性が低い		X 1 (W 0)		
				A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている				
3	活動内容の 有効性・・成果指標などの目標値の達成状況はどう ・最小限のコストで事業を実施できているか			B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α		使用料収入も目標に対して高水準で実 }な成果があがっている。	
				C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し				
		・最小限のコストで事業を実施できてい ・委託化など事業の効率化・省力化に向		A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない				
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負	担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	減等がある程度図られている	В		lt、コストの縮減は図れているが、更なる 必要もあると考える。	
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か		C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必		改善に向けて努力する必要もあると考える。		
		・事業の実施が市の政策、施策の推進 があったか	に効果	A (2)	効果があった ある程度効果があった			・大規模な駐車スペースを提供することにより、上高地への観光客の集客が図れ、市長公約の実現に向けて 能した。		
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成上で有効に機能したか		B (1)			Α			
		・市長公約の実現を図る上で有効に機 か	能した	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった		REC/20		
		合計		7	/ 10	\rightarrow		100点換算	70 点	
(Г,	分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入) 指定管理の導入も考慮に入れなが					世る				
	(参考) H24事業評価編 (二次評価)	情果 ・施設内設備の老朽化にも適	切に対応	こしながら	、利用者の利便性	を重視した運営の実施				

4 今後の方向性(Action)

・コストの削減を意識しながら、駐車場利用者が快く利用できるような運営ができている。

	0	維持·改善		拡大		縮小	廃止の検討	H25完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	・施設	内設備の老朽化にも適切に	こ対応し	ながら、利用者の利便性を	重視し	た運営の実施		
	0	維持・改善		拡大		縮小	廃止の検討	H25完了予定

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

(担当課評価に同じ)

	市 樂夕		25					内	線					
事	業名	番枝		飛騨高山スキ―場運営事業費	担	当課	商工観光部 観光課 2							
	会記	H	12	観光施設事業特別会計	4//	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして						
予	事 事 目		1	総務費	総合	分野	1	観光						
算			1	総務管理費	計画	基本施策	1	人々のこころを魅了する滞在型・通年型観光地づくり	を行う					
			1	一般管理費	ı	施策	3	観光関連施設の整備						
	根拠詞	計画		高山市産業振興計画										
-	実施計画事業			観光施設運営事業、観光・交流施設維持修繕改修事業										
	市長公紀	約	1	積極的な観光振興策を実施します。 ・国際的かつ福祉的観光都市として将来的に持続できる歴史、自然、文化、人情、食、技を中心とした観光基盤をさらに発展させ付加価値を高めます。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。										

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	スキーヤー・スノーボーダー	対象者数	43,743 人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	スキー場利用者数を増加させ、冬季の観光を振興する。		
概要	事業の 実施手法 (手段)	飛驒高山スキー場の管理運営		

2 事業の推移・結果(Do)

1の実績	・気候状況の影響から、目標とする営業日数には至らなかったが、前年度と同日の営業日数を確保した。 ・利用者数について、前年と比べ減少があった。
5 4 154	・利用者数について、前年と比べ減少があった。

			指標名	単位	目標·実績	H23	H24	H25
	活	歌呼声ルフェ	44 4 C 44	В	目標値	121	121	121
	動指	飛騨高山スキー	十一场吕未口奴		実績値	100	100	-
	標	算出根拠等	高山市公設3スキー場合同連絡会認	養資料	達成率(%)	83	83	ı
	成田	水照点ルフナ	-場の年間利用者数	Α.	目標値	50,000	50,000	50,000
	果指	飛評同山ハイ	物の平间利用有数		実績値	48,658	43,743	ı
	標	算出根拠等	高山市公設3スキー場合同連絡会記	養資料	達成率(%)	97	87	1
					目標値			
成					実績値			ı
成果面		算出根拠等	算出根拠等		達成率(%)			-
Ш					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-

		(人件費を	事業費 除き繰越・補正を含む)		H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
	歳出(千円) (A)				69,542	59,929	77,602
コス		益者負担(使用料·負担金等)			45,660	41,537	47,700
۲	源 内)他特定財源(国·県支出金·起債等)			23,882	18,392	29,902
面		財源					
	コスト	受益者1件当たり	小(円)	(A/B)	1,429	1,370	1,552
	指標	受益者		(B)	48,658	43,743	50,000

3	<u>分析・評価(C</u> 評価項目	heck) ※平成24年度の実績を 評価観点	76平1四	評価基準			≕/≖	評価 評価内容の説明(評価の理由等)			
	計画項目	計画就無				整 华	計加	6千1四1/5/4	谷の説明(計画の柱田寺)		
1		・事業実施に対する市民ニーズの傾向	はどう	A (2)	ニーズが高い			・市民を含めスキー場に対する関心が低くなっているが、教育 観点から見ても、スキー場は市民にとって重要な施設であるため。		教育的	
	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴い	ニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	В				
		は減少していないか		C (0)	ニーズが低い						
				A (2)	事業主体を見直す	余地はない					
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していない。	ئ	B (1)	一部見直しが必要	である	В	・国立乗鞍青少年交流・主体であることは概ねる	の家との兼ね合いから見ても、市 妥当であると考える。	が事業	
				C (0)	市が実施する必要	性が低い					
				A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている		・若者を中心にスキー離れが深刻となっており、昨年度からる 若者をスキー場に呼ぶために、「19歳限定でリフト料金を全			
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況はど		B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	日有をイナー場に呼ぶために、1日殿版及とウンドや選を主に 無料」という企画を行っている。しかしながら、今年度から奥美 濃地区のスキー場が同企画を取り入れたことから、結果的にご		ら奥美	
				C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し		キー場利用者が昨年度より減少してしまったため、新たな誘客 施策を考える必要がある。			
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実 施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽		A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない					
4	執行方法 の効率性			B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		В	・限られた予算の中である程度効率的な事業執行ができている。しかし、施設内設備の老朽化が激しいため、緊急性の高い ものから優先的に、整備にあたる必要がある。				
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必 要である			Oいかつ後ルがに、定期にのたる必要がのる。			
		・事業の実施が市の政策、施策の推進があったか			効果があった			・昨年度よりもスキー場利用者は減少したが、スキー場の運		の運営	
(5)	政策面における効果	・のうたが 総合計画及び主要計画等の目標達成を図る :で有効に機能したか		B (1)	ある程度効果があった		В	は冬期間の観光振興・観光客誘致事業としての役割を担うり、市長が掲げる観光客談の達成に対してある程度の効果		担ってお	
		・市長公約の実現を図る上で有効に機 か	能した	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった		あったと考える。			
	슴計			5	/ 10 -			100点換算	50	点	
([,	分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入) ・ 有益な誘客方法及びスキー場振興等 ・ 施設内設備の老朽化が激しいため、				策の検討・実施 緊急性の高いものから優先的に整備が必要						
	(参考) H24事業評価結果 (二次評価)・市営スキー場の今後の運営方針を早				りる必要がある。						

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

- ・関係団体の一つである(独)国立乗鞍青少年交流の家と意見交換の実施 ・安心安全なスキー場運営に向けて、リフト等部品の更新工事の計画・設計 ・その他、今シーズンの誘客を目的とする企画会議の実施 ・効率的な運営方法の検討

)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討

H25完了予定

次年度の 実施方針

- ・有益な誘客方法及びスキー場振興策の検討・実施 ・老朽化した施設設備の修繕・工事の計画的な実施
- 維持·改善 拡大 縮小 廃止の検討 H25完了予定

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

市営スキー場の今後の運営方針を早期に定める必要がある。